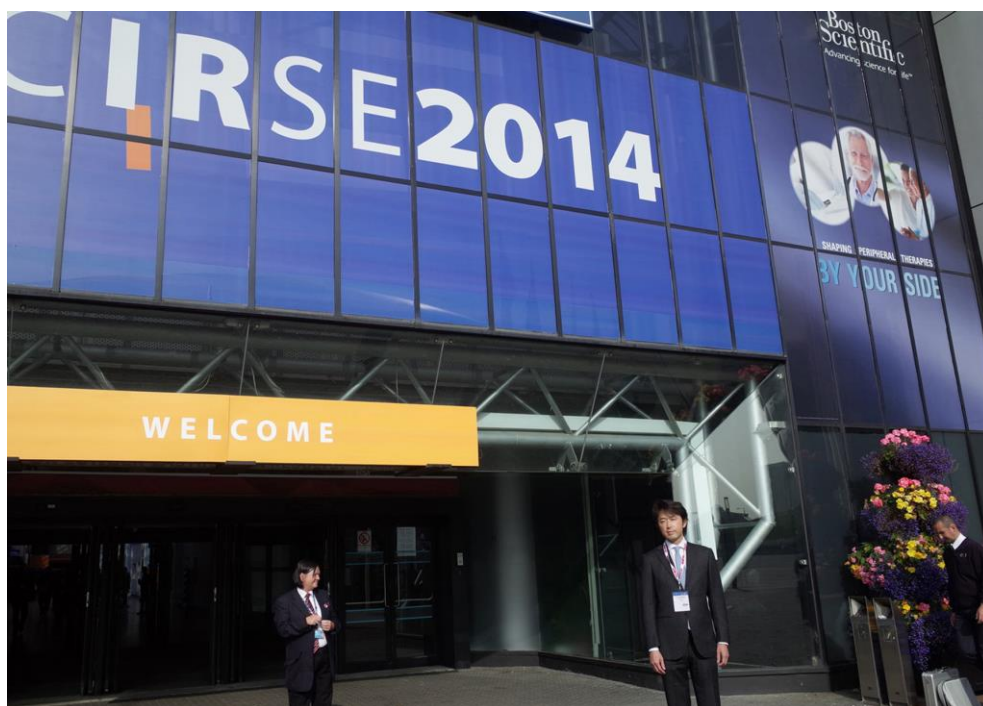


29th CIRSE: Cardiovascular and Interventional Radiological Society of Europe's Congress

小金丸雅道

2014年9月、Glasgow/UKで行われたCIRSEに参加しました。CIRSEは国際IVR学会の中で最大規模、参加者の多いヨーロッパIVR学会です。学会期間中は、翌週に予定されているスコットランド独立選挙運動の最中で、街中は、半分お祭り騒ぎのようにも感じられました。会場は宿泊したホテルからも近く、CIRSEらしい大きな会場で、いつものように豪華な機器展示を始め、メインホールも立派でした。久留米からは一人での参加でしたが、東海大学教授、長谷部先生方々と一緒に discussion できる機会も設けて頂き、充実した学会でした。



学会会場前にて

CIRSEは教育的 session である fundamental course と、最先端レベルの special session が区別されて講演されます。塞栓物質 session では、様々な塞栓物質の話が聞けて、忘れかけていた知識を充填することができました。



会場内の機器展示

僕に与えられた発表は 20 分間の oral presentation. 今までの発表の中で、一番緊張したみたいです（この原稿を書いているころには忘れましたが）。



会場の一つ



スコットランド、グラスゴーの街並み

ランダム化比較試験のフリーペーパーセッションでは、ある症例に対する **fibered platinum coil** と **AVP II** の比較試験が面白いと感じました。AVP は自己拡張型メッシュ構造を持ち、シングルデバイスでの効果的塞栓を有します。近年、日本でも認可されたデバイスです。実際に使用してみると、非常に高い塞栓効果を感じます。この報告では透視時間、手技時間、被曝量のいずれも **AVP II** が優れていたものの、コストは高いという結果でしたが、一年後の塞栓効果には有意差がないなど、長期成績に差がないことも興味深い内容でした。

また、近年日本で承認された薬剤溶出性ビーズに関しては、一部の肝細胞癌例を対象とした報告によると、緩徐な塞栓に比べて完全壊死率が高く、病理学的にも壊死率の高さが認められています。しかし、ランダム化された結果ではなく、今後は **DEB-TACE** と **Lipiodol-TACE** のランダム化比較試験の必要性が必須でしょう。日本では **JIVROSG** による同試験が行われると聞いており、結果が楽しみです。

Lipiodol-TACE では、肝細胞癌の病気分類は、近年 HKLC が現実には則していると言われていています。これは門脈塞栓の程度、進行例でも TACE されていることから治療適応を見直すべきと考えられているからです。TACE の方法も、日本ではゼラチンスポンジは基本的にポンピングでなくハンドカットすべきでありとも紹介されていました。欧米では、受け入れられていないようですが、実際国内ではすでにカットされた状態の **gelpart** が販売されており、海外での早期認可が必要に思います。

欧米では **radioembolization** の普及がかなり進んでいるようです。高価な治療法で、また日本での導入は困難なようですが、セカンドラインとしての治療成績は良いように感じます。

Morbidity and Mortality session は、どの学会で聞いても興味深い症例が発表されます。**Interventionalist** は必ず誰もが、ヒヤッとする症例を経験します。これらの症例を共有し、検証することはとても大切なことです。安全によりよい治療をおこなうためには、失敗例から学ぶことも多々あります。



エールビール（下面発酵で醸造）はイギリスの特徴
常温でゆっくり飲みます。ちなみに日本はラガービール（上面発酵）で、冷や

して喉越しを楽しみます。

イギリスの食事のイメージは、良くないと思っていました。しかし、レストランを選べばかなり旨いものを楽しむことができます。これは結構意外な発見でしたし、その後スコッチバーで飲むスコッチは格別に美味しく、スコットランド人の陽気さも知ることができました。



スコッチはもちろんストレートで！

CIRSE は毎回新しい知見を教えてくれ、IVR の情熱を色あせないようにしてくれます。最新の知識を入れ、新しい技術を知り、思考力を磨くためには非常に重要な学会だと思います。

次回 CIRSE はポルトガル・リスボン、そして次はスペイン・バルセロナです。是非とも今後も参加したい学会の一つです。